

学生表彰受賞者一覧（2008 年度～2021 年度上半期）

※ 学年は受賞時当時の学年

●学長賞

【2020 年度】

氏 名	所 属	受 賞 内 容
まつもと ちさと 松本 千里	芸術学研究科 総合造形芸術専攻 博士後期課程 1年	六甲山観光株式会社、阪神電気鉄道株式会社が主催する「六甲ミーツ・アート芸術散歩 2020」において「準グランプリ」を受賞した功績は学長奨励賞に値する。 2017 年度学長奨励賞の受賞歴があり、新たにこの度同等以上の功績が認められたことから学長賞の受賞となった

●学長奨励賞受賞者

【2021 年度上期】

氏 名	所 属	受 賞 内 容
山崎 樹生	情報科学研究科 情報工学専攻 博士前期課程 2 年	電子情報通信学会ネットワークソフトウェア研究会において、2020 年若手研究奨励賞を 2021 年 1 月 22 日に受賞した。 また、2019 年 IEEE 広島支部学生シンポジウムにおいても HISS 優秀研究賞(受賞日 2019 年 12 月 1 日)を受賞しており、勉学や研究活動を熱心に取り組んでいる。

【2020 年度】

氏 名	所 属	受 賞 内 容
石崎 遙己	情報科学研究科 情報工学専攻 博士前期課程 1年	国 際 会 議 The Eighth International Symposium on Computing and Networking (CANDAR ' 20) に お い て CANDAR Outstanding Paper Award を受賞した。
山本 愛海	情報科学部 知能工学科 4年	学術において、2年生から4年生までの3年間、連続して特待生に選出される業績を残した。 学業に対する弛まぬ努力と、その結実となった特待生連続選出は、他の学生の範とするところであり、継続的な努力の結果が与える影響は顕著である。
油木 悠	情報科学研究科 システム工学 専攻 博士前期課程 1年	2020 年 12 月 12、13 日の 2 日間で行われた Fourth International Symposium on Information and Knowledge Management (ISIKM2020)において、結合音による蝸牛内の重低音再生を利用した自動車内サウンドデザインの研究発表で、Best Presentation Award を受賞した。 受賞対象が学生のみでなく一般も含まれる中での功績である。

小杉 拓己	平和学研究科 平和学専攻 2年	一般財団法人国際法学会が主催する「第 7 回小田滋賞」優秀賞を受賞した。 「当該学生が受賞した第 7 回小田滋賞の「優秀賞」は、国際政治・外交史分野では過去最高の賞である。
-------	-----------------------	---

【2019 年度】

氏 名	所 属	受 賞 内 容
川本 祐士	情報科学部 医用情報科学科 4年	学術において、2年生から4年生までの3年間、連続して特待生に選出される業績を残した。 学業に対する弛まぬ努力と、その結実となった特待生連続選出は、他の学生の範とするところであり、継続的な努力の結果が与える影響は顕著である。
藤井 里奈	情報科学部 知能工学科 4年	
番原 耕一郎	芸術学研究科 総合造形芸術専攻 2年	「ART MEETS ARCHITECTURE COMPETITION」(AAC)2019において、優秀賞を獲得した。AAC は株式会社アーバンネットコーポレーションが美術、芸術、デザイン、建築、空間演出などを学んでいる学生を対象に、2001 年から毎年開催している全国規模のコンクールである。 2019 年は 70 点の応募があり、被推薦者は最終審査に進む3名に選ばれ、実制作を行い、作品を展示し、審査員を前にプレゼンテーションを行った。 入選することすら困難なコンクールにおいて優秀賞を得ることができたことは、本学の創作レベルの高さを示すものであり、全国の芸術系大学の中で本学の存在感をアピールする貢献が認められる。
橋田 修一	情報科学研究科 知能工学専攻 2年	学部4年3月から博士前期課程2年の間にジャーナル論文1件と国際会議発表5件(うち4件が筆頭著者、1件が共著者)の発表を行っており、優れた研究内容に対して国際会議2件(1件は受賞済み、1件は受賞決定済み)、国内会議4件と、合計6件の学術賞を受賞している。 国際会議での受賞は学生のみならず全発表者を対象とした会議全体の発表の中から選ばれる賞である。発表、受賞対象の研究は、ディープラーニングを用いたソーシャルメディア上の投稿データやIoTを対象としたセンサデータの分類手法の新しいモデルであり、ビッグデータ分析や機械学習分野において重要な基礎研究として、今後様々な応用分野への展開が期待される。

梶島 康平	情報科学研究科 システム工学専攻 2年	「Detection System of Pharyngeal Tonsil Hypertrophy: Optimal Cepstral Coefficient for Detecting Anti-Formant」が Best paper award に選ばれ、8 月 26-29 日に Seoul で行われた The 14th International Conference on Innovative Computing, Information and Control (ICICIC2019)で表彰された。 学生のみではなく一般も対象とした論文 400 件以上からの表彰であり、今後の活躍も期待される。
吉村 織那	芸術学研究科 造形芸術専攻 1年	「第5回石本正日本画大賞展」で「準大賞」を受賞した。本展は島根県浜田市出身の公募団体創画会会員、京都市立芸術大学の名誉教授の日本画家・石本正画伯の功績を顕彰し、未来への希望に満ちた学生たちの創作活動を奨励する公募展である。 全国の日本画専攻を有する美術系大学に優秀な学生作品の推薦を依頼し、30大学から87作品の応募があり、大賞1点、準大賞2点、奨励賞5点のほか、審査員特別賞として中野賞、石本正美術館長賞が授与された。この受賞は、本学で学んできたことが評価され本人の励みになるうえに、後輩には意欲的な研究の目標となる。
福光 透也	芸術学部 美術学科 4年	「第5回石本正日本画大賞展」で「石本正美術館長賞」を受賞した。本展は島根県浜田市出身の公募団体創画会会員、京都市立芸術大学の名誉教授の日本画家・石本正画伯の功績を顕彰し、未来への希望に満ちた学生たちの創作活動を奨励する公募展である。 全国の日本画専攻を有する美術系大学に優秀な学生作品の推薦を依頼し、30大学から87作品の応募があり、大賞1点、準大賞2点、奨励賞5点のほか、審査員特別賞として中野賞、石本正美術館長賞が授与された。この受賞は、本学で学んできたことが評価され本人の励みになるうえに、後輩には意欲的な研究の目標となる。
出本 裕	情報科学部 医用情報科学科 4年 (2018 年度 軟式野球部 主将)	本学軟式野球部は、中国地区大学軟式野球連盟主催、2018年度第24回春季・秋季リーグ戦において、それぞれ優勝、準優勝の好成績を残した。その結果、全日本大学軟式野球連盟主催、第41回全日本大学軟式野球選手権大会及び第35回西日本大学軟式野球選手権大会に中国地区代表として出場し、本学の名声を全国的に高めることに大きく貢献した。

【2018 年度】

山下 裕司	情報科学研究科 情報工学専攻 2年	学術において 2017 年に開催された国際会議「The 32nd International Technical Conference on Circuits/Systems、Computers and Communications(ITC-CSCC2017)」において、「Best Paper Award」を受賞した。 また、課外活動でも中国地方の学生を対象とした「学生ケータイあわ〜ど 2017」で「アプリ作品部門優秀賞」をチームで受賞した。 さらに全国の学生、教員、企業技術者を対象とした一般財団法人ファジィシステム研究所が主催する「ユニーク・自作チップ・コンテスト in ひびきの」において 2018 年に「優秀賞」、2017 年度に「審査委員奨励賞」をチームで受賞した。
田中 優菜	芸術学部 デザイン工芸学科 3年	東京ミッドタウンが才能あるデザイナーやアーティストを表彰する「Tokyo Midtown Award 2018(第 11 回)」アート部門において、236 件の中の 6 点に選ばれ、「優秀賞」「審査員特別賞」「オーディエンス賞」を獲得した。 なお、審査員特別賞は本年の審査過程において特別に設けられた賞であり、Tokyo Midtown Award で 3 つの賞を受賞した初めての作品となった。 また、全国各地で開催されるビブリオバトルの祭典「全国大学ビブリオバトル 2016」では地区予選で優勝し全国大会に出場、その功績により本学の「学生顕賞」を受賞した。 「けんみん文化祭ひろしま 2016」では、現代詩部門で「広島県議会議長賞」を受賞。 「いちだい知のトライアスロンコメント大賞」では、2 年連続で「大賞」を受賞し、芸術学部で最初の「いちだい知の鉄人達成」となった。

【2017 年度】

上村 譲史	情報科学研究科 知能工学専攻 2年	感情情報処理に関する国際ワークショップ「The Second Workshop on Processing Emotions, Decisions and Opinions (EDO 2017) at 8th Language & Technology Conference」において、最優秀論文賞(Best Paper Award)を受賞した。
大庭 孝文	芸術学研究科 総合造形芸術専攻 3年	日本画の公募団体「創画展」で奨励賞を受賞した。創画展は全国規模の日本画公募団体展で、学生での受賞は稀であり、作品の質の高さが評価された。 また、2016～2017 年「若手新進芸術家育成交流展」では、各美術系大学から推薦された 118 名の中から 17 名の優秀作品賞に選ばれた。 さらに受賞者から選出される「新進芸術家選抜展 FAUSS」の 7 名にも選ばれている。若手育成事業として国内の芸術系大学が参加したこの展覧会での受賞は、本学の芸術学部の評価にも大きく貢献している。

松本 千里	芸術学部 デザイン工芸学科 4年	「Tokyo Midtown Award2017(第10回)」(東京ミッドタウン)アート部門において、327 件の中の6点に選ばれ、優秀賞を獲得した。 また、「第5回広島新県美展」(広島県立美術館)では、工芸部門において優秀賞を受賞し、広島県立美術館と他8か所の巡回展で展示された。 京都から日本の工芸界を見据えるために開催された「次世代工芸展」(京都市美術館)では、AI KOWADA 賞(大賞)を受賞した。 さらに、マツダ・広島市立大学共創ゼミ「作品審査～次世代マツダデザインへ向けての仕込み」においても優秀作品に選出された。 その他、旧日本銀行広島支店、大阪、SUNABA ギャラリーでの企画展に選抜されるなど4年生でありながら新鋭作家として各分野及び各地域から高い評価を得て、数々の業績を挙げている。
-------	------------------------	---

【2016 年度】

古川 千夏	芸術学研究科 造形芸術専攻 1年	全国の美術を学ぶ学生から作品を公募するアート・ミーツ・アーキテクチャー・コンペティション2016(第16回)において、最優秀賞を獲得した業績。 また、金属工芸公募展「いまからまめさら 2016」においては、最高賞となる山中源兵衛賞並びにオーディエンス賞の2賞を受賞する業績を挙げた。 更に安曇野市が実施する第5回そば猪口アート展では、準大賞を受賞し同市の安曇野高橋節郎記念美術館において入選作品の展示会を含む全国2か所の巡回展示が実施されるものとなった。
額田 晟太	国際学部 国際学科 4年	留学先である中国の西南大学において、西南大学国際学院主催の「漢語之星」スピーチ大会で上級の最優秀賞を受賞した業績。受賞により本学の教育の水準の高さを示すとともに、大学の名声を向上させることに貢献した。 更に1年間の留学期間で漢語水平試の6級に合格した実績は評価に値する。
杉原 穂	情報科学部 知能工学科 4年	本学が平成 26 年度から実施している特待生制度において、2年生から4年生までの3年間、連続して特待生に選出される業績を残した。
山本 茉歩	情報科学部 医用情報科学科 4年	学業に対する弛まぬ努力と、その結実となった特待生連続選出は、他の学生の範とするところであり、継続的な努力の結果が与える影響は顕著である。

【2015 年度】

大庭 孝文	芸術学研究科 総合造形芸術専攻 (博士後期課程) 1年	被推薦者は、岐阜県高山市主催の平成 27 年度「第 26 回臥龍桜日本画大賞展」において、最高賞となる大賞を受賞した。 「臥龍桜日本画大賞展」は、平成 2 年から毎年開催される全国公募の日本画の展覧会であり、受賞により本学の芸術教育の水準の高さを示すとともに、大学の名声を向上させることに貢献した。
来田 卓哉	国際学部 国際学科 4年	被推薦者は、本学が推進する読書、映画、美術展鑑賞推進事業「いちだい知のトライアスロン」に積極的に取り組み、最終目標であるトライアスロンコース(読書、映画、美術展覧会の合計 120点に関する読書や鑑賞、そのコメント投稿)を初めて修了し、“知の鉄人”第1号となった。また、投稿したコメントも2度のコメント大賞を受賞した。 このコースの達成は、幅広い教養を身に付ける当該事業の趣旨において高く評価された。また、この第1号の認定は、学内外に良い影響を与えており、本事業の推進を牽引した功績は大きなものがある。

【2014 年度】

岩瀬 大祐	情報科学研究科 システム工学専攻 2年	平成 27 年 3 月 6 日に、第11回キャンパスベンチャーグランプリ全国大会で日刊工業新聞社賞を受賞。 第13回キャンパスベンチャーグランプリ中国大会で、「テクノロジー部門最優秀賞」を受賞。
室瀬 一眞	情報科学部 システム工学科 4年	
北瀬 結香子	国際学部 国際学科 4年	平成 26 年 12 月 8 日に、京都外国語大学で行われた「第 15 回全日本学生ドイツ語弁論大会」において、1 位となるドイツ連邦共和国総領事賞を受賞。
行 晃司	芸術学研究科 博士前期課程 1年	日本を代表する美術雑誌「月刊美術」主催の絵画コンクール『第 3 回美術新人賞 デビュー2015』において、第一席にあたるグランプリを受賞。

【2013 年度】

西本 淳一郎	国際学部 国際学科 4年	平成 25 年 1 月にアラブイスラーム学院の主催で開催された第 10 回アラビア語オリムピックススピーチ部門で第 1 位を受賞した。
佐々木 善寛	国際学部 国際学科 3 年	2013 年 10 月 13 日(日)、韓国・統営市(トンヨン市)で開催されたトライアスロン大会において、18-24 歳の部で優勝した。

小川 恵	芸術学研究科 博士前期課程 2年	2013年10月に開催された第一回次世代工芸展において、作品〈うつろいⅡ〉が最優秀賞を受賞した。
鈴木 奈緒	芸術学研究科 博士前期課程 2年	2012年12月に開催された美術公募展「絵の町尾道四季展」において、作品「opening」が尾道賞〔グランプリ〕を受賞した。

【2012 年度】

酒井 華代	芸術学研究科 博士前期課程 2年	第15回新生展において、油彩画「Flowtingu」が準大賞にあたる【新生賞】を受賞した。
小杉 奈夏	国際学部 国際学科 4年	平成24年11月にソウルで行われた在大韓民国日本大使館主催の「日韓交流スピーチ大会」で優秀賞を受賞した。
亀島 翔平	情報科学研究科 博士前期課程 2年	平成24年11月21日から24日にマレーシア・クチンで開催された国際ワークショップ「IIEEJ 3rd Image Electronics and Visual Computing Workshop (IEVC2012)」において、当該学生を筆頭著者とする研究発表がIEVC2012 Excellent Paper Award (優秀論文賞)を受賞した。

【2011 年度】

水越 千紘	芸術学研究科 博士後期課程 3年	当該学生は、第37回春季創画展(社団法人創画会)に出品した「Kの舟」(S50号)が春季創画展賞を受賞した。
内藤 成文	情報科学研究科 博士前期課程 2年	当該学生は、平成23年2月に発行された電子情報通信学会和文論文誌B「通信技術の未来を築く学生論文特集号」において、学生論文特集号優秀論文賞を筆頭著者として受賞した。
小川 恵	芸術学部 デザイン工芸学科 4年	当該学生は、3年に1度開催される国内唯一の漆国際展「国際漆展石川2012」において奨励賞を受賞した。
広島市立大学 軟式野球部		平成22年度中国地区大学軟式野球連盟主催第15回秋季リーグ戦に優勝し、全日本大学軟式野球連盟主催第27回西日本大学軟式野球選手権大会に中国地区第二代表として出場した。

【2010 年度】

竹内 麻利央	情報科学研究科 博士前期課程 2 年	当該学生は、電子情報通信学会ネットワークソフトウェア時限研究委員会のネットワークソフトウェア研究奨励賞と IEEE 広島支部の HISS 優秀研究賞を受賞した。また、電子情報通信学会和文論文誌に筆頭著者の学術論文が掲載され、さらに、査読付き国際会議の論文集において5編の学術論文(うち 4 編は筆頭著者)が掲載された。
広島市立大学 軟式野球部		平成 21 年度中国地区大学軟式野球連盟主催第 14 回秋期リーグ戦に優勝し、全日本大学軟式野球連盟主催第 26 回西日本大学軟式野球選手権大会に中国地区第一代表として出場した。
山中 洋明	芸術学研究科 博士後期課程 3 年	当該学生は、2009 年 9 月開催の第 94 回二科展において二科会会友に推挙された。推挙の理由は 2006 年から 4 年連続入選し、初出品であった 2006 年の特選受賞等のめざましい実績から当該学生の彫刻家としての能力が二科会会友に相応しいと判断された。
七搦 綾乃	芸術学研究科 博士前期課程 2 年	当該学生は、全国公募「フォークアートおおや 第 16 回公募展」にて「養父市ふるさと賞」(2 位相当)を受賞した。

【2009 年度】

浜田 雄介	国際学研究科 博士後期課程 3 年	論文が、2008 年日本レジャー・レクリエーション学会の研究奨励賞に選出された。
小西 由華	国際学部 3 年	広島県を代表する女子アーチェリー選手として、中国地方のみならず 2008 年大分で開催された国体に県代表として出場するなど全国規模の大会に出場し活躍した。
中山 仁史	情報科学研究科 博士後期課程 3 年	日刊工業新聞社主催の「第 7 回キャンパスベンチャーグランプリ中国」に応募し、グランプリ及び優秀賞情報通信部門(NTT ドコモ中国支社賞)を受賞した。そして、「第 5 回キャンパスベンチャーグランプリ全国大会」にて、特別賞・ゼネラルエンジニアリング賞(テクノロジー部門 2 位相当)を受賞した。
小田 康平	情報科学研究科 博士前期課程 2 年	
舩岡 真伊	芸術学研究科 博士前期課程 2 年	3 年に 1 度開催される国内唯一の漆国際展であり、漆芸の世界では非常に評価の高い「国際漆展石川 2009」において奨励賞を受賞した。
前田 由芽	芸術学研究科 博士後期課程 3 年	当該学生は、社団法人創画会の第 36 回創画展に出品した「こんぶエキス」で奨励賞を受賞した。初出品ながら絵画性、表現力が高く評価され、入賞、受賞に至った。

【2008 年度】

梶川 直樹	国際学部 4 年	防衛省が主催する平成 19 年度「安全保障に関する懸賞論文」において優秀賞を受賞し、防衛大臣より表彰を受けた。
川中 洋祐	情報科学研究科 博士前期課程 2 年	非常に優れた研究能力などを有し、IEEE 9TH HISS 最優秀研究賞、情報処理学会中国支部奨励賞を受賞するなど、学術研究活動が学外で特に高く評価され、非常に顕著な業績を挙げた。
野路 育子	芸術学研究科 博士後期課程 3 年	二科展に平成 16 年度から 5 年連続入選し、平成 18 年度には特選受賞等の実績から、平成 20 年 9 月開催の二科展において会友に推挙された。

●学生顕彰受賞者

【2021 年度上期】

氏 名	所 属	受 賞 内 容
松川 華子	芸術学研究科 造形芸術専攻 博士前期課程 2年	公益財団法人日本美術院の全国公募展「第76回春の院展」に入選した。本学の卒業生も数多く出品している団体展であるが、これまで博士前期課程での入選は無く、今後が大いに期待される。
篠藤 碧空	芸術学研究科 造形芸術専攻 博士前期課程 1年	2021年4月17日から5月23日に開催された「第3回公募アートハウスおやべ現代造形展」の立体部門に入選した。この公募は、全国公募であり、学生だけに限らず若手作家も応募できる。今回は全国から444の応募があった作品の中から、34作品が入賞・入選を果たし、約13倍の倍率の中、本学生の作品は入選に選ばれている。
亀山 慶一郎 富田 菜月	芸術学部 デザイン工芸学科 4年	2021年3月に施工した横川駅南北通路のグラフィックデザインに、横川の企業である歴清社の金紙を用いた提案と監修に関わった。横川地域への社会貢献を積極的に行ったことを高く評価する。

【2020 年度】

氏 名	所 属	受 賞 内 容
寺本ちひろ	情報科学部 知能工学科 3年	いちピア行事の実施に主体的に取り組むとともに、いちピアを学内外に周知するためにホームページや公式 LINE を立ち上げ、さらには大学説明会や学生体験発表会など多くの機会において広報に尽力した。 また、2020 年度には新型コロナウイルスの影響により学生の登校が制限される中、りっすんポストや交流会のオンライン化に積極的に貢献した。
高路地 諒	情報科学部 知能工学科 4年	中国地区大学軟式野球連盟主催令和元年度第 25 回春季・第 24 年秋季リーグ戦において大いに活躍し、本学軟式野球部の春季、秋季の両季での準優勝に大きく貢献し、全日本大学軟式野球連盟主催第 36 回西日本大学軟式野球選手権大会への中国地区代表としての出場という成果に導いた。この際、中国地区大学軟式野球連盟主催第 25 回春季リーグ戦では、本塁打王に輝き、第 24 回秋季リーグ戦では、ベストナイン三塁手にも選出され、連盟より表彰された。
松川 華子	芸術学研究科 造形芸術専攻 博士前期課程 1年	「第20回佐藤太清賞公募美術展」で特選福知山市長賞を受賞した。
村上 明花里	芸術学研究科 造形芸術専攻 博士前期課程 1年	「第20回佐藤太清賞公募美術展」で特選横浜賞を受賞した。
松尾 奈保	芸術学研究科 造形芸術専攻 博士前期課程	新鋭作家として数々のグループ展に招待されてきたほか、2019年開催の第8回「ドローイングとは何か」展において準大賞を受賞した。

氏 名	所 属	受 賞 内 容
	2年	
多々納 啓人	情報科学研究科 情報工学専攻 博士前期課程 1年	広島市内の新型コロナウイルスの感染状況の最新情報を発信するポータルサイトを構築し、情報科学研究科の学生ならではの広島市への地域貢献の姿を示すものである。サイトの構築は高く評価されている。
田中 優菜	芸術学研究科 造形芸術専攻 博士前期課程 1年	「第1回アートパラ深川大賞」展において「三井住友あいおい生命賞」を受賞した。
土屋 和也	情報科学研究科 システム工学専攻 博士前期課程 1年	第 19 回キャンパスベンチャーグランプリにおいて、「スマート農業事業「家畜の健康管理システム」」が特別賞(中国経済産業局賞)を受賞した。
下家 大和	情報科学部 システム工学科 4年	
軟式野球部	代表者 柴田 峻佑 情報科学部 システム工学科4年 (当時主将)	中国地区大学軟式野球連盟主催令和元年度第 25 回春季、および、第 24 回 秋季リーグ戦において、それぞれ、準優勝、第 3 位の好成績を残した。秋季リーグでは、第 3 位ではあったものの、プレーオフにて第 2 代表の座を獲得し、全日本大学軟式野球連盟主催第 36 回西日本大学軟式野球選手権大会に中国地区代表として出場し、本学の名声を全国的に高めることに大きく貢献した。
やました ひろと 山下 浩 豊	情報科学研究科 システム工学 専攻 1年	情報処理学会コンピュータビジョンとイメージメディア(CVIM)研究会の「卒論セッション」において、優秀賞を受賞した。 CVIM 研究会は登録会員数が 600 名以上おり、情報処理学会の研究会の中でも最も活発に活動している。本研究会の運営委員及び聴衆による投票によって選ばれる優秀賞を受賞したことは、コンピュータビジョン分野さらには情報科学分野における本学の存在感を示すことに貢献するものである。

【2019 年度】

黒田 明日香	情報科学研究科 システム工学専攻 1年	学術において、情報処理学会コンピュータビジョンとイメージメディア(CVIM)研究会の「卒論セッション」において、優秀賞を受賞した。 CVIM 研究会は登録会員数が 600 名以上おり、情報処理学会の研究会の中でも最も活発に活動している。本研究会の運営委員及び聴衆による投票によって選ばれる優秀賞を受賞したことは、コンピュータビジョン分野さらには情報科学分野における本学の存在感を示すことに貢献するものである。
竹内 章	情報科学部 医用情報科学科 4年	社会活動において、2018 年4月に開寮された国際学生寮「さくら」に1期生として入寮し、レジデントリーダーに任じられた。全体会議・レジデント会議の委員長として、寮生と教職員との議論を重ね寮内のルールを新たに作り、寮内・寮外学生、さらには地域との交流を企画・運営した。これらの活動は、校

		内外、国籍を超えた活動であり、「さくら」の活性化に寄与するものである。 具体的なイベントとしては、国籍を超えた寮生の交流 (Sports & BBQ Party、Halloween Party など)、寮外学生との交流 (HIROSHIMA and PEACE、土砂災害時の本学学生一部受け入れ)、地域交流 (大塚小学校で開催された「ふれあい祭り」、書道パフォーマンス) が挙げられる。 これらのイベントは、2019 年度以降も継続的に実施される予定である。 なお、国際学生寮「さくら」1期生レジデントリーダーは3名いる。竹内章 (情報科学部4年)、山本綾乃 (国際学部3年)、金田咲月 (国際学部3年) であるが、なかでも4年生として、中心的役割を担った。
大島 愛	芸術学研究科 総合造形芸術専攻 2年	第12回岡山県新進美術家育成「I氏賞」奨励賞受賞、第7回全国公募「ドローイングとは何か」大賞受賞など数年に渡り、非常に多くの成果を積み上げてきた。 また、本学協定校であるアラマス大学へ交換留学生として留学し、留学先のドイツにおいても、日々活動を展開しており、渡航先の現地マスメディアにも取り上げられている。
成澤 健太	情報科学研究科 システム工学専攻 2年	2019年11月30日から12月1日に岡山県立大学で開催された第21回IEEE広島支部学生シンポジウム(HISS)において投稿された研究論文のうち、優れたものと評価され HISS 優秀研究賞を受賞した。
山際 納月	情報科学研究科 システム工学専攻 2年	2019年11月30日から12月1日に岡山県立大学で開催された第21回IEEE広島支部学生シンポジウム(HISS)において投稿された研究論文のうち、優れたものと評価され HISS 優秀研究賞を受賞した。
土屋 和也	情報科学部 システム工学科 4年	2019年11月30日から12月1日に岡山県立大学で開催された第21回IEEE広島支部学生シンポジウム(HISS)において投稿された研究論文のうち、優れたものと評価され HISS 優秀研究賞を受賞した。
梅敷 亮	芸術学研究科 造形芸術専攻 1年	「基町プロジェクト(M98)」における新ギャラリー(Unite)の改開設プロジェクトに興味を持ち積極的に関わった。研究科では、金属造形研究室に所属しているが金属造形研究の他、室内空間の設計や演出にも取り組んでいる。 本プロジェクトの改装にあたっては、2019年度前期において、店舗内の壁面の補修と塗り替え、トイレの改装などをほぼ一人で行い、後期に入ってから、店舗内で使用する展示台(2台)など自らの専門性を生かし、設計と制作を行ってきた。 これらの改装費に関する費用は、基町プロジェクトの予算で賄われているが、施工作业等は全てボランティア精神のもとで行っており、Unite の開設に大いに貢献した。 店舗は、2019年8月中旬にオープンし、既に5件の展示を

		終え、2019 年 11 月末からは、COC+の成果発表の会場としても活用され、周辺地域の方々からの評価も高く、今後も様々な展示企画が期待されている。
小田 敦子	国際学部 国際学科 4年	本学では学生の消防団への加入を促進するため、2017 年度は各クラブに1名以上の消防団加入を求めた。当該学生は卓球部の一員として 2017 年9月1日付けで中消防団に入団し、事務局に配属されて研修等に参加した。 2018 年度は、当該学生は自らの意志で消防団活動を継続することを選択して、西消防団事務局に配属され、現在に至るまで、火災予防広報活動やポンプ操法大会、普通救命講習等に出務してきた。 この消防団活動以外にも、当該学生は、国土交通省運輸局が観光振興等に功績が顕著な団体または個人等を表彰する「中国地方観光振興アワード」に選定された「Hello! Hiroshima Project」の会員として活動したり、広島市文化財団青少年センターの主催行事「ひろしま盆ダンス 2019」において「ひろしま盆ダンスおもてなし隊」の一員として会場案内や来場者への折鶴指導を行ったりと、多様な社会活動を重ねている。 これらは社会活動における優れた功績と認められるとともに、本学に対する社会的評価の向上に資した。
世波 里菜	情報科学部 システム工学科 4年	本学では学生の消防団への加入を促進するため、2017 年度は各クラブに1名以上の消防団加入を求めた。当該学生はボランティアサークル「ねっこ広島」の一員として 2017 年9月1日付けで中消防団に入団し、事務局に配属されて研修等に参加した。 2018 年度は、当該学生は自らの意志で消防団活動を継続することを選択し、安佐北消防団事務局に配属され、現在に至るまで、水防訓練や女性隊会議、その他の消防団活動に出務している。活動の様子については、消防局消防団室を通じて高い評価が伝えられている。 2013 年に「消防団を中核とした地域防災力の充実強化に関する法律」が施行され、学生の消防団加入促進が求められている中、当該学生の活動は社会活動において優れた功績を挙げたと認められるとともに、本学に対する社会的評価の向上に資した。
平本 蓮	情報科学部 知能工学科 4年	在学中、中国地区大学軟式野球連盟主催 2018 年度第 24 回春季・秋季リーグ戦において大いに活躍し、春季優勝、秋季準優勝に大きく貢献し、全日本大学軟式野球連盟主催第 41 回全日本大学軟式野球選手権大会、第 35 回西日本大学軟式野球選手権大会への中国地区代表としての出場という成果に導いた。 この際、中国地区大学軟式野球連盟主催、第 24 回春季リーグ戦では、打点王に輝き、ベストナイン内野手にも選出され、連盟より表彰された。

下村 祐介	芸術学部 デザイン工芸学科 4年	宮島ろくろCOC+アートプロジェクトを3年続けて受講し、プロジェクトの学生代表として作品展の企画構成、展示、販売、発表を行った。宮島ろくろを知ってもらうこと、手に取ってもらうことをコンセプトに展示構成を行い、梱包箱やフリーペーパー、Webサイトを視覚造形分野の学生と協力し、制作した。 2019年12月7日に西区民文化センターで行われた学生の観光研究・活動発表会2019にて発表を行った。 第45回宮島特産品振興大会に出展した「木の温度」は銅賞を受賞した。
門前 佑奈	芸術学部 デザイン工芸学科 4年	第7回社会医療法人清風会芸術奨励作品展に「自在置物～伊勢海老～」を出展し、作品展初の理事長特別賞を受賞、買い上げとなった。 また、第47回宮島特産品振興大会では、宮島の伝統工芸産業の技術を用いて制作した「拭漆 水紋皿」が銅賞を受賞した。本作品はCOC+アートプロジェクト「Feel セトウチ in モトマチ 2019」にも出展している。
河野 雄也	情報科学部 情報工学科 2年	2019年度の「情報処理学会コンピュータサイエンス領域奨励賞」の受賞や英文論文執筆など、栄えある研究業績を挙げた。 情報処理学会コンピュータサイエンス領域奨励賞(CS領域奨励賞)は、コンピュータサイエンス領域に所属する情報処理学会の研究会及び研究会開催シンポジウムにおける研究発表のうちから特に優秀な研究発表を行った若手会員に贈呈されるものである。 多数の若手研究者の研究発表の中で一握りの秀でた者のみが表彰されるものである上に、受賞対象者が学生に限られてもいない中で、本学入学2年目の時点での研究発表によりCS領域奨励賞を受賞するという栄誉に輝いた。 また、受賞対象の研究を英文論文誌にて出版した。研究室配属前の学部生のCS領域奨励賞は稀であり、情報処理学会の学会誌「情報処理」の記事で特別に報告されている。 これらの受賞及び活動は、本学の教育研究の評価にも大きく貢献するものである。

田中 知希	情報科学部 知能工学科 2年 (第26回 広島市立大学 大学祭実行委員会 代表者)	第26回広島市立大学大学祭実行委員会は、2019年10月26日、27日に開催された本学大学祭において、イベント、模擬店、カフェ、展示、フリーマーケット等の様々な企画、準備、運営に尽力し、大学祭を大いに盛り上げ、成功に導いた。 なお、これまでの大学祭実行委員会が残してきた資材のうち、不要なものを一斉に処分するとともに、保管場所を整理するなどの改善に努めた。 また、昨年度に引き続き地域のまつり(沼田町ふるさと祭り等)にボランティアとして参加し交流を深めたことにより、結果的に大学祭の準備に地域の協力を得るなど、地域との信頼関係を築き上げている。
--------------	--	---

【2018 年度】

畑中 直人	国際学部 国際学科 4年	フランスの本学提携校のレンヌ第二大学に 1 年間留学し (2016/9-2017/6)、その後は 1 年間休学してルワンダの首都キガリにあるNPO法人ルワンダの教育を考える会の事務所で2カ月間のインターンを行い(2017/9-11)、ルワンダから帰国後は広島 の NGO である ANT-Hiroshima にて 2018 年 8 月までインターンを行 った。 その一環として、ルワンダでの経験を踏まえ、2018 年 6 月 29 日、広島市立宇品中学校の「特設道徳:平和ってなんだろう」にて 授業を行った。 同様の授業を比治山大学「ボランティアワーク特別講義」でも 6 月 6 日に実施した。
寺本 圭吾	情報科学研究科 情報工学専攻 2年	学術において、2018 年 3 月に開催された、2017 年度電子通信 学会コンピュータシステム研究会において「電子情報通信学会コ ンピュータシステム研究会優秀若手講演賞」を受賞した。 また、第 69 回電気・情報関連学会中国支部連合大会において 「連合大会奨励賞」を受賞した。 この他にも、2016 年の「第 18 回 IEEE 広島支部学生シンポジウ ム(HISS)」で「HISS 優秀研究賞」を受賞しているほか、国際学会 発表なども行っている。 課外活動としても全国の学生、教員、企業技術者を対象とした 一般財団法人ファジィシステム研究所が主催する「ユニーク・自作 チップ・コンテスト in ひびきの」において 2017 年にチームで主要メ ンバーとして活躍し「審査委員奨励賞」を受賞した。 加えて、学業においても、平成 28 年度特待生として学部 3 年 次に選出された。
能勢 陽平	情報科学研究科 情報工学専攻 2年	課外活動として、国際会議 2018 International Conference on Field-Programmable Technology で開催された設計コンテスト 「Autonomous Vehicle Driving Competition using FPGA」で 2 名 のチームで準優勝した。 また、電子情報通信学会 リコンフィギャラブルシステム研究専 門委員会主催の「第8回 相磯秀夫杯 FPGA デザインコンテスト (テーマ:FPGA による自動車の自動走行コンテスト)」において、2 名のチーム「HCU CA 研」で準優勝した。 さらに、一般財団法人ファジィシステム研究所が主催する「ユニ ーク・自作チップ・コンテスト in ひびきの」において 2017 年に「審 査委員奨励賞」を 5 名のチームで受賞している。 いずれもチーム戦であるがいずれにおいても主要なメンバーと してチームの成績に大きく貢献し、広島市立大学の学生として模 範となる活動である。

濱元 祐佳	芸術学研究科 造形芸術専攻 1年	第5回未来展グランプリ受賞に対して 未来展とは、東京芸術大学、武蔵野美術大学、多摩美術大学、女子美術大学、日本大学芸術学部、東北芸術工科大学の教員の推薦を受けた各々の大学の30歳までの優秀な卒業生の作品によって競われる日動画廊主催のコンクールである。 今回は筑波大学と広島市立大学もゲスト校として参加した。各大学推薦教員、美術評論家、美術雑誌編集者らによる審査委員会で、グランプリ(大賞)を受賞した。
中嶋 健太	情報科学部 医用情報科学 4年	本学では学生の消防団への加入を促進するため、平成29年度に部室を使用する各クラブには1名以上の消防団加入を求めた。当該学生は演劇部の一員として平成29年4月1日付けで安佐南消防団に入団し、事務局に配属されて研修等に参加した。 平成30年度は、大学として消防団加入を部室貸与条件とすることは廃したが、当該学生は自らの意志で消防団活動を継続することを選択し、東消防団尾長分団に配属され、4月から11月までの8か月間に12回出務した。活動の様子については、消防局消防団室を通じて高い評価が伝えられている。 平成25年に「消防団を中核とした地域防災力の充実強化に関する法律」が施行され、学生の消防団加入促進が求められている中、当該学生の活動は社会活動において優れた功績を挙げたと認められるとともに、本学に対する社会的評価の向上に資した。
鈴木 一郎	情報科学部 知能工学科 3年	本学では学生の消防団への加入を促進するため、平成29年度に部室を使用する各クラブには1名以上の消防団加入を求めた。当該学生はレゴマス部の一員として平成29年4月1日付けで安佐南消防団に入団し、事務局に配属されて研修等に参加した。 平成30年度は、大学として消防団加入を部室貸与条件とすることは廃したが、当該学生は自らの意志で消防団活動を継続することを選択し、安佐南消防団伴分団に配属され、4月から11月までの8か月間に29回出務した。活動の様子については、消防局消防団室を通じて高い評価が伝えられている。 平成25年に「消防団を中核とした地域防災力の充実強化に関する法律」が施行され、学生の消防団加入促進が求められている中、当該学生の活動は社会活動において優れた功績を挙げたと認められるとともに、本学に対する社会的評価の向上に資した。

大橋 菜緒	国際学部 国際学科 3年	本学では学生の消防団への加入を促進するため、平成 29 年度に部室を使用する各クラブには1名以上の消防団加入を求めた。当該学生は平和活動サークル「S2」の一員として平成 29 年 5 月 1 日付けで安佐南消防団に入団し、事務局に配属されて研修等に参加した。 平成 30 年度は、大学として消防団加入を部室貸与条件とすることは廃したが、当該学生は自らの意志で消防団活動を継続することを選択し、佐伯消防団事務局に配属され、4 月から 11 月までの 8 か月間に 25 回出務した。活動の様子については、消防局消防団室を通じて高い評価が伝えられている。 平成 25 年に「消防団を中核とした地域防災力の充実強化に関する法律」が施行され、学生の消防団加入促進が求められている中、当該学生の活動は社会活動において優れた功績を挙げたと認められるとともに、本学に対する社会的評価の向上に資した。
上本 佳奈	芸術学部 美術学科 2年 (S2代表者)	S2は、Smile×Smile の理念の下、2010 年に結成された学生サークルである。①平和活動と、②食による国際協力活動での優れた功績により、広島ユネスコ活動奨励賞を受賞することとなった(平成 30 年 12 月)。 平成 30 年度には、①原爆の碑巡り(平和祈念式典参加者および修学旅行生対象)また平和学習を行い、②TFT(貧困国児童への寄付)、フェアトレード食材による和食のイベントであるハラルお好み焼きイベントなどを行い、多くの参加者を得た。 広島発の平和に関する教育機会、また世界の貧困問題などの学習機会を提供することで、市民の間に平和に対する意識を高めるという成果を着実に挙げており、今後も一層の活躍が期待される。本学の理念「科学と芸術を軸に世界平和と地域に貢献する国際的な大学」を学生主体の活動として具体化した。
山中 蓮	情報科学部 システム工学科 2年 (第 25 回 広島市立大学 大学祭実行委員会 代表者)	第 25 回広島市立大学大学祭実行委員会は、2018 年 10 月 27 日、28 日に開催された本学大学祭において、イベント、模擬店、カフェ、展示、フリーマーケット等の様々な企画、準備、運営に尽力し、大学祭を大いに盛り上げ、成功に導いた。 なお、地域のまつり(沼田町ふるさと祭り等)に協力したり、大学周辺の町内会にチラシを配布したりするなど、これまで以上に大学周辺地区との交流を積極的に進め深めることで、広島市立大学及び大学祭の広報に貢献した。 また、クリーンキャンペーン等の学内行事に大学祭実行委員会として積極的に参加した。
奥野 亜美	国際学部 国際学科 3年 (広島市立大学 落語研究会 「落花生」 代表者)	介護施設ショートステイわかば、グループホームこころ、大塚公民館敬老会などにおける落語会や pepper を使ったロボット落語などの取り組みが注目を集め、NHK テレビ「お好みワイドひろしま」、NHK ラジオ「こいラジ」、広島ホームテレビ「みみよりライブ 5up!」などの番組で、その活動が取り上げられ、大学の知名度向上に貢献した。

【2017 年度】

向地 由	国際学部 国際学科 4年	官民協働海外留学支援制度(トビタテ！留学JAPAN日本代表プログラム)に採択され、平成28年4月から平成29年1月までルワンダ・プロテスタント人文社会科学大学に留学し、留学先の大学で「ヒロシマセミナー」を開催し、ヒロシマの歴史や直面する記憶の継承について発表し、先方の大学関係者・学生と意見交換を実施した。 また、広島のNGOと連携し、ヒロシマに関する絵本や資料を先方の大学に寄贈した。
谷 隆磨	情報科学研究科 情報工学専攻 2年	国際会議 The 16th International Workshop on Assurance in Distributed Systems and Networks (ADSN 2017)において、投稿論文が採択されたことに加え、全国的な学会である電子情報通信学会のネットワークソフトウェア研究会にて、学術研究活動に対する賞を続けて受賞している。
但馬 敦	芸術学研究科 造形芸術専攻 1年	金属工芸公募展「いまからまめさら2017」展にて85名の応募者(出展総数:約100点)の中から最高賞の山中源兵衛賞を受賞した。
第16回西風 新都駅伝大会 実行委員会代表 実行委員長 梶田 綺女	芸術学部美術 学科油絵専攻 4年	第16回西風新都駅伝大会実行委員会は、本学のトライアスロン部が中心となり、大学構内及び周辺において駅伝大会を主催することにより、大学と地域との連携、相互理解に努め、大会を成功に導いた。 これまで参加された市民の方々から高い評価を受けており、今後も継続的に本学と地域の懸け橋としての活動、相互理解の発展に寄与するものと見込まれる。 また、新しくロゴマーク・マスコットキャラクター・表彰台の制作・SNSを活用するなど、老若男女を問わず親しまれる大会にすることに尽力した。

【2016 年度】

花房 祐貴	情報科学研究科 システム工学専攻 2年	学生によるベンチャービジネスのアイデア・事業プランを競い合い、日本の次代を担う若者の人材育成と新産業の創造を目的とした「第14回キャンパスベンチャーグランプリ中国大会」において、特別賞である日刊工業新聞社賞を受賞した。 同中国大会のサイトにおいては、第14回の選考結果及び表彰式の様子が掲載され、加えて平成28年1月20日付の日刊
岡田 淳司	情報科学研究科 システム工学専攻 2年	

網本 勇氣	情報科学研究科 システム工学専攻 1年	工業新聞には受賞記事が掲載されており、本学の研究活動を広く知らせることに貢献したことは評価できる。
飯島 聡志	情報科学研究科 情報科学専攻 (後期) 3年	未来を拓く地方協奏プラットフォーム運営協議会が主催する「未来博士3分間コンペティション 2016」において、最優秀賞を受賞した業績。 同運営協議会のサイトにおいて受賞内容が公開されており、本学の研究活動を広く知らせることに貢献したことは評価できる。
三好 花奈	国際学部 国際学科 4年	核問題に関する国際平和活動や被爆三世の立場から核廃絶の発信を継続的に行っており、オバマ米国大統領の広島訪問にあたりニューヨークタイムズ取り上げられた功績は評価される。 また、優れた語学力を認められオバマ米国大統領の平和記念公園訪問時にニューヨークタイムズの取材助手を務めた。これらの広島市立大学の学生として行って来た活動は、大学の名声を高めることに寄与したものである。 加えて本学が実施した「日露青年フォーラム」において尽力した功労は大いに評価される。
住岡 梓	芸術学部 デザイン工芸学科 4年	公益社団法人 日本グラフィックデザイナー協会広島地区の「ヒロシマ平和ポスター学生コンペティション 2016」に於いてグランプリを受賞した業績。 このほか、基町プロジェクト、沼田地区の美術展覧会、シャレオにおける広告等、本学の広報業務へ積極的に貢献したことが評価された。
田中 優菜	芸術学部 デザイン工芸学科 1年	「全国大学ビブリオバトル 2016～京都決戦～」に向けた地区予選を勝ち抜き代表となり、続く中国Cブロック地区決勝戦においても代表者に選出され、全国の地区ブロック決勝を勝ち抜いた30名に入る業績を残した。 本学で初の全国大会への出場となったことは、他の学生の読書活動に好影響を与えることとなった。
山本 彩斗	情報科学研究科 システム工学専攻 2 年	積極的な研究の取り組みから「第18回 IEEE・HISS 広島支部学生シンポジウム」において、HISS 最優秀プレゼンテーション賞を受賞した。また、協同受賞ではあるものの「電子情報通信学会中国支部学生会 学生ケータイあわ〜ど 2015」で学生会特別賞も受賞している。
第15回西風新都駅伝大会実行委員会 代表 藤葉 麻紀	情報科学部 情報工学科 4年	第15回西風新都駅伝大会実行委員会は、本学のトライアスロン部が中心となり、大学構内及び周辺において駅伝大会を主催することより、大学と地域との連携、相互理解に努めている。 これまで、参加された市民の方々から高い評価を受けており、今後も継続的に本学と地域の懸け橋としての活動、相互理解の発展に寄与するものと見込まれる。

山本 大貴	情報科学部 知能工学科 4年	広島県ラグビーフットボール協会から広島県セブンス代表セレクションにおいて、社会人が混在する中、広島県選抜代表チーム(成人選抜)に選出された。
長瀬 悠太	情報科学部 知能工学科 3年	広島県選抜代表チームのレギュラーとして、第7回関西・一宮セブンスカップ(東海・中部・近畿・中四国・一部北陸地域の府県代表)において、広島県をベスト8に進出させる活躍をしたことは優れた功績と評価できる。
吉田 聖司	国際学部 国際学科 3年	第48回広島県実業団・学生合同陸上競技会(400m 障害)においては優勝し、同じく第49回大会には準優勝の成績を収めた。 また、第69回中国五県陸上競技対抗選手権大会予選会では、西日本学生対校選手権大会の標準記録を突破し出場権を獲得した。 これに加えて、陸上競技の講師としての指導やボランティアとして熱心に取り組んでいる姿勢は、他の学生の模範となっている。
向井 生成	国際学部 国際学科 4年	中国地区大学軟式野球連盟主催の第19回春季及び秋季リーグ戦において、ベストナイン三塁手に選出され表彰を受けた業績が評価された。
勝谷 文尊	情報科学部 情報工学科 4年	中国地区大学軟式野球連盟主催の第19回春季リーグ戦において、ベストナイン外野手に選出され表彰を受けた業績が評価された。
広島市立大学 サッカー部 代表 佐々木 康紀	情報科学部 知能工学科 3年	平成28年度広島県学生サッカーリーグにおいて、2位の成績を収め、また、同学生サッカー連盟の大会運営にも積極的に協力した。 これに加えて、曾根教授の指導の下、本学の400Mトラックの芝生の維持管理を積極的に行ったことも評価された。

【2015 年度】

岡田 淳司	情報科学研究科 システム工学専攻 1年	立命館大学主催の全国高校・大学ソフトウェア創作コンテスト「あいちゃれ 2015」において、協賛企業賞であるVSN賞及びニッセイコム賞を受賞した。当該大学のサイトにおいて、最終選考会の結果及びプレゼンテーションの様子が掲載され、広島市立大学の名称を広く知らせている。 また、創作したソフトウェアの内容が学術をもって社会貢献を目指しており、その学術研究活動が高く評価された功績は大きい。
花房 祐貴	情報科学研究科 システム工学専攻 1年	
パソコンなんでも相談室実行委員会 代表 菊池 光太郎	情報科学研究科 システム工学専攻 2年	パソコンなんでも相談室実行委員会は、知的制御システム研究室の学生22名により、大学で得た情報科学の知識や研究活動等を「パソコンなんでも相談室」の形により、地域への還元を図ることで、大学と地域との連携、相互理解に努めている。また、活動の実施にあたり、広島市の広報紙への掲載、公共施設へのチラシの配布、マスメディアへの露出などにより、本学が地域社会に学術をもって貢献していることを発信するものである。

第 14 回西風新都駅伝大会実行委員会 代表 北村 凱平	情報科学部 医用情報科学科 4年	第 14 回西風新都駅伝大会実行委員会は、本学のトライアスロン部が中心となり、大学構内及び周辺において駅伝大会を主催することより、大学と地域との連携、相互理解に努めている。 また、活動の実施にあたり、マスメディアへの露出などにより、本学の学生が地域に貢献していることを発信したものである。 これまで、参加された市民の方々から高い評価を受けており、今後も継続的に本学と地域の懸け橋としての活動、相互理解の発展に寄与するものと見込まれる。
---	---------------------------------	--

【2014 年度】

小田 真理子	国際学部 国際学科 3年	当該学生2名は、ロバート・ジェイコブス准教授が中心となって取り組んでいる「グローバル・ヒバクシャ・プロジェクト」の一環として、2014 年 2 月 28 日～3 月 2 日にかけて、マーシャル諸島の首都マジュロで開催されたワークショップに参加し、核の被爆証言をオーラル・ヒストリーとして残す手法を学んだ。同ワークショップには、広島と同じく被爆地であるマーシャル諸島やカザフスタンの学生が参加し、それぞれの国における核被害の経験を発表し、その被曝の歴史共有した。 また、帰国後はワークショップに参加した体験に基づく核被害の記者会見を行い、社会に幅広く発信した。
三好 花奈	国際学部 国際学科 3年	
新原 大貴	国際学部 国際学科 4年	第 31 回日中学生会議に参加した後、第 32 回会議においては日中学生会議実行委員長として、リーダーシップを発揮し、17 大学から参加した 32 名を統率し、同会議を成功に導いたことは特筆に値する。また、同会議の実行委員長は第 31 回まですべて東京大学の学生であったが、今回初めて地方公立大学の学生が委員長を務めた功績が評価される。
金本 玲奈	芸術学部 デザイン工芸学科 2年	公益社団法人 日本グラフィックデザイナー協会広島地区の「ヒロシマ平和ポスター学生コンペティション 2014」に於いてグランプリを受賞。
藤井 直也	情報科学部 情報工学科 4年	大学創立 20 周年記念事業として、自主的に大運動会を企画し、大運動会の実施実行委員会を組織し、実施に向けた準備をほぼ学生の手で行い、9 月 25 日に盛大にこれを実施した功績は大きい。
横佩 祐司	芸術学部 デザイン工芸学科 4年	「ひろしまドリミネーション 2014」において NHK 前緑地帯にイルミネーションモニュメント「Peaceloop」(ピースループ)をデザインし、2014 年 11 月 13 日から 2015 年 1 月 3 日まで展示。その優れたデザインは数あるモニュメントの中で、ひととき印象的で来場者を楽しませ、新聞や TV ニュースでも多数取り上げられるとともに、ドリミネーションの PR と、本学の開学 20 周年を広く内外にアピールし、貢献した。

事崎 翔太	情報科学研究科 知能工学専攻 1年	広島やアジア地域におけるソーシャル・ビッグデータサイエンス分野の学術研究活動で、以下のとおり受賞した。 (1) 8月16-17日にシンガポールで開催された国際会議 NETs2014 の一般セッションで「優秀論文賞」を受賞(ここで発表した論文は、その後、International Journal of Electronic Commerce Studies に採録) (2) 7月19日に本学で開催された 2014 IEEE SMC Hiroshima Chapter 若手研究会で「若手研究賞」を受賞(ここで発表した論文は、その後、11月7-8日に本学で開催された IEEE SMC Hiroshima Chapter の国際会議 IWCIA2014 で発表) 受賞の研究は、集中豪雨や地震等による自然災害の近くに住む地域住民が、さまざまなツイート文章群からリアルタイムで自然災害情報を入手する技術につながるものであり、実用化に向けた今後の展開と地域貢献が期待される。
第13回西風 新都駅伝実行 委員会 代表 佐々木 善寛	国際学部 国際学科 4年	第13回西風新都駅伝実行委員会は、同大会を成功に導くとともに、地域の人々や普段大会などでお世話になっている人々と交流を深めた。
第19回広島 市立大学 大 学祭実行委員 会 代表 実行委 員長 石塚 心 平	情報科学部 情報工学科 4年	第19回広島市立大学大学祭実行委員会は、2012年10月27日、28日に開催された本学大学祭において、イベント、様々な模擬店、カフェ、展示、フリーマーケット等の企画、準備、運営に尽力し、学生生活の中で最大のイベントの一つである大学祭を大いに盛り上げ、成功に導いた。
河野 達也	情報科学部 情報工学科 4年	(株) セカンドステージ主催の Mizuno CUP SS SUMMER 第4クルル丹波(会場: 丹波市春日総合運動公園野球場)にて大いに活躍し、本学野球部を第3位に導くとともに、本塁打王に輝き、主催者より表彰された。関西・中四国地区の大学野球チームが多数エントリーする同 Mizuno CUP 大会にて良好な成績を残し、本学の名声を高めた。
石井 章太	情報科学研究科 情報工学専攻 2年	県内外の陸上競技大会で優秀な成績を上げ、スポーツ分野で本学の名声を高めた。 特筆すべき功績は、2012年は400mで、大学院入学後は400m障害に種目転向し、2013年、2014年と3年連続で広島市陸上競技選手権大会の覇者となる。 また、地元の小学生陸上教室の支援、競技会補助員などのボランティア活動にも熱心に取り組み、2011年「住友生命健康財団」実践助成金獲得の際には、スポーツ振興会5団体を代表して、贈呈式に出席した。

【2013年度】

重吉 美咲	国際学部 国際学科 4年	当該学生2名は、2012年度第11回キャンパスベンチャーグランプリ中国大会で、「私とあなたと食と農:ファーマーズカフェ&マーケットによる大学発地域活性化プラン」で奨励賞を受賞した。
-------	--------------------	--

土肥 安希乃	国際学部 国際学科 4 年	
三宅 里沙	国際学部 国際学科 4 年	(財)広島市未来都市創造財団が運営するアステールプラザの演劇事業「演劇引力広島」の第 10 回プロデュース公演『ボーダー』(脚本・演出:赤堀雅秋、主催:アステールプラザ、広島市)に出演し、平成 25 年 2 月に開催された同公演で重要な役を演じきり、広島市の文化的事業で中心的な役割を果たした。
自律走行車椅子ロボット 『マイウェイ』開発チーム		2012 年度第 11 回キャンパスベンチャーグランプリ中国大会で、自律走行車椅子ロボット『マイウェイ』の開発・提案がテクノロジー部門最優秀賞を受賞した。
濱本 亮	情報科学研究科 博士前期課程 2 年	電子情報通信学会ソサエティ第 18 回情報ネットワーク研究会において、筆頭著者として発表した研究成果「自律分散的に形成されるクラスタ構造に対する漸近安定性保証技術」が研究賞を受賞した。
トーマス ダム (Thomas Damm)	ハノーバー専科大学 からの特別聴講生	2013 年 8 月 3 日～8 日に、写真展『Out of the Shadow: Black Rain Hibakusha』を旧日本銀行広島支店にて企画し開催した。 トーマス・ダムは広島の被爆の歴史を写真作品とすることを検討し、その中で、黒い雨体験者たちの存在を知り、彼らの肖像写真の撮影を行い、パンフレットも合わせて制作した。 国際学部の小池あずさほか 7 名は、トーマス・ダムが日本語を話せないことから、13 人の黒い雨体験者の方々それぞれの経歴や体験を英語に翻訳してトーマス・ダムに伝え、撮影の準備を手伝うとともに、撮影当日、写真撮影中に、30 分から2時間にわたりインタビューを行った。さらに、録音されたインタビュー内容を日本語と英語で要約し、展覧会パンフレットのための原稿を制作するなど、写真展の実現に貢献した。 この展覧会は会期中に 450 名以上の来場者があり、パンフレットが配布され、海外のみならず国内でもあまり知られていない黒い雨の現状を伝えることができた。
小池 あずさ	国際学部 国際学科 4 年	
沖本 美貴		
亀本 知可子		
田川 夢乃		
山下 祐樹	国際学部 国際学科 3 年	
田中 美琴		
才上 真由子		
齊藤 華織		
第 12 回西風新都駅伝大会実行委員会		2012 年 3 月に開催された第 12 回西風新都駅伝大会において、実行委員長をはじめ委員全員で第 12 回西風新都駅伝大会を大いに盛り上げ、駅伝大会を成功に導いた。
第 18 回広島市立大学大学祭実行委員会		2011 年 10 月 29 日、30 日に開催された第 18 回広島市立大学大学祭において、イベント、模擬店等の企画、準備、運営に尽力し、学生生活の中で最大のイベントの一つである大学祭を大いに盛り上げ、大学祭を成功に導いた。
第 7 回パソコンなんでも相談室実行委員会		第 7 回パソコンなんでも相談室実行委員会は、「第 7 回パソコンなんでも相談室(初心者対象)」を実施し、公募した延べ 23 名の受講者に、「Word・Excel」の使い方、動画や画像の編集方法、ネットの設定法、PC のセキュリティなどの相談に対応した。本ボランティア活動は地域社会と本学の相互理解を深めることに寄与するとともに、社会的にも高い評価を受けた。

林 幹貴	国際学部 国際学科 4 年	第 15 回春季・秋季リーグ戦(中国地区大学軟式野球連盟主催)において活躍し、チームを準優勝に導くことに貢献した。また、第 27 回西日本大学軟式野球選手権大会(全日本大学軟式野球連盟主催)への中国地区代表としての出場に大いに貢献した。 第 17 回春季リーグ戦(中国地区大学軟式野球連盟主催)では、ベストナイン捕手に選出され、かつ、首位打者にも輝き、連盟より表彰された。
百 悠作	情報科学部 情報工学科 4 年	第 15 回春季・秋季リーグ戦(中国地区大学軟式野球連盟主催)にて活躍し、チームを準優勝に導くことに貢献した。また、第 27 回西日本大学軟式野球選手権大会(全日本大学軟式野球連盟主催)への中国地区代表としての出場に大いに貢献した。 第 17 回秋季リーグ戦(中国地区大学軟式野球連盟主催)では、盗塁王に輝き、連盟より表彰された。
森 大輝	情報科学研究科 博士前期課程 1 年	個人(1500m)種目では、第 67 回広島県選手権大会(6 位)、秩父宮杯第 66 回西日本学生陸上競技選手権大会(9 位。決勝進出)、第 92 回広島市陸上選手権大会(優勝)、第 36 回中国四国学生陸上選手権大会(3 位)などにおいて、優秀な成績を収めた。 また、団体種目では、第 47 回錦川清流駅伝大会・一般の部で 3 位、第 62 回佐北駅伝大会で 2 位(2 区区間賞)などに輝き、メディアでもたびたび取り上げられた。

【2012 年度】

岡本 望	芸術学研究科 博士前期課程 2 年	当該学生 2 名は、いずれも 2012 年 2 月、南区光洋寺を管理する向洋協同組合より依頼された本堂の襖絵制作を担当した。短い制作期間に加え、伝統ある建築に相応しい古典的画題という困難な条件にも関わらず、格調高い作品を完成させた。
菅原 有加	芸術学研究科 博士前期課程 2 年	
白石 久弥	国際学部 国際学科 2 年	当該学生 3 名は、平成 24 年度に実施された社団法人中国地域ニュービジネス協議会主催の『魅力発信グランプリ』(中小企業庁委託事業「地域中小企業の人材確保・定着支援事業」)において、優秀賞を受賞した。 また、平成 24 年度より広島市立大学において、学生によるビジネス・起業サークルであるFBAを立ち上げ、その中心メンバーとして精力的に活動している。
清水 結衣	国際学部 国際学科 2 年	
村井 桜子	国際学部 国際学科 2 年	
伊藤 徹弥	情報科学研究科 博士前期課程 1 年	

高木 勇一郎	情報科学研究科 博士前期課程 1 年	についてはその認識性能のみならず処理の高速性、汎用性が高く評価され、文字認識の市場製品と十分戦える実用化レベルと評価された。 電子情報通信学会 パターン認識・メディア理解研究会 (PRMU 研究会) が主催する第 16 回 PRMU アルゴリズムコンテストにおいて、当該学生の応募アルゴリズムが入賞した。 当該アルゴリズムについてはその着眼点の面白さが評価され、また認識対象である書道の基礎に関する考察など、アルゴリズム説明書が秀逸であった点が高く評価された。
浜岡 裕之	情報科学研究科 博士前期課程 1 年	
横溝 将成	情報科学研究科 博士前期課程 1 年	
上川 智幸	情報科学研究科 博士前期課程 1 年	
武田 涼平	情報科学研究科 博士前期課程 1 年	
藤井 美奈	情報科学部 システム工学科 4 年	単独でシステム開発し、その成果により第 11 回キャンパスベンチャーグランプリ中国 特別賞 (日刊工業新聞社賞) を受賞した。
陸上競技部		平成 24 年 8 月は陸上部の芸術学部部員を中心に北広島町豊平で「夏休み子どもの工作教室」を開催。9 月には同町豊平東小学校で「陸上競技/短距離・リレー出前授業」を実施。小学校教員に助言を頂き自分たちで指導案を作成し、生徒に走り方やバトンパスのコツなどを指導した。 また小学生オタフクカップ、障害者陸上大会、平和マラソンなど 8 大会に補助員として協力。「市立大学の学生は仕事に責任を持ってやってくれる。さすがだ」との評判を頂いた。 さらに小学生陸上教室や広島市スポーツ協会主催のサタデー陸上などで指導の手伝いも継続して行っている。 「出前授業」など新たな試みに挑戦しながら、積極的に地域貢献活動を実施した。
第 17 回 広島市立大学 大学祭実行委員会		2010 年 10 月 23 日、24 日に開催された第 17 回広島市立大学大学祭にあたり、イベント、模擬店、カフェ・展示、フリーマーケット等の企画、準備、運営に尽力し、学生生活の中で最大のイベントの一つである大学祭を大いに盛り上げ成功に導いた。

工徳 勇人	情報科学部 システム工学科 4 年	中国地区大学軟式野球連盟主催、第 14、15、16 回春季・秋季リーグ戦にて大いに活躍し、第 14 回優勝、第 15 回準優勝、さらには、全日本大学軟式野球連盟主催、第 26、27 回西日本大学軟式野球選手権大会への中国地区代表としての 2 年連続出場に大いに貢献した。 この際、中国地区大学軟式野球連盟主催、第 15 回春季リーグ戦では、ベストナイン遊撃手に、第 15 回秋季リーグ戦では、ベストナイン遊撃手に加え、優秀選手にも選出された。さらに、第 16 回秋季リーグ戦では、盗塁王に輝き、連盟より表彰された。
藤井 克弥	情報科学部 システム工学科 4 年	中国地区大学軟式野球連盟主催、第 14、15 回春・秋季リーグ戦にて大いに活躍し、第 14 回優勝、第 15 回準優勝、さらには、全日本大学軟式野球連盟主催、第 26、27 回西日本大学軟式野球選手権大会への中国地区代表としての 2 年連続出場に大いに貢献した。 この際、中国地区大学軟式野球連盟主催、第 15 回春季リーグ戦では、ベストナイン二塁手に選出され、連盟より表彰された。
北居 潤	情報科学部 システム工学科 4 年	2011 年 3 月に開催した「第 11 回西風新都駅伝大会」において実行委員長を務め、大会を成功へと導き学内学外のスポーツを通じての交流に貢献した。また、2011 年日本学生トライアスロン選手権に中国・四国ブロックの代表として出場を果たした。
中村 祐一	情報科学部 システム工学科 3 年	第 37 回中国学生バドミントン選手権大会における混合ダブルスにて優勝を果たした。また、第 34 回広島県学生新人戦大会において、男子ダブルス及びミックスダブルスの両種目に優勝した。加えて、第 56 回中・四国学生バドミントン選手権大会の個人戦においてベスト 8(参加者数 233 人)に入るなど、複数の大会において優主な成績を収めた。
河野 歩実	情報科学研究科 博士前期課程 1 年	平成 24 年度、個人種目(3000mSC)では第 35 回中国四国学生選手権大会において優勝し、創部以来初の歴代選手権者として名を残した。また西日本学生対校選手権大会の標準記録を突破し出場権を獲得した。団体種目では、錦川清流駅伝大会・一般の部(区間 1 位)で初優勝、鬼太郎カップ境港駅伝大会大学生の部(区間 2 位)で 8 位に入賞した。 学部 3 年生で編入した後、市大陸上競技部・長距離グループの練習を率先して牽引してきた。その結果、部員のレベルが一気に向上し、現在の陸上部の好成績につながっている。当該学生の競技や勉学に全力で取り組む姿勢は、他の学生の模範となっている。
森 大輝	情報科学部 情報工学科	平成 24 年、個人(1500m)種目では広島県選手権大会 2 位、中国五県陸上対抗選手権大会 2 位、中国四国学生陸上競技

	4 年	選手権大会 6 位となり、西日本学生陸上対抗選手権の標準記録を突破し出場権を獲得した。団体種目では、錦川清流駅伝大会・一般の部で初優勝(区間 3 位)、鬼太郎カップ境港駅伝大会(区間 2 位)大学生の部で 8 位に入賞した。 陸上競技は競技人口やエントリー数が他競技に比べ圧倒的に多く競争が激しい中で、優勝を逃しているものの優れた競技者として称賛されるべき結果を残したといえる。また当該学生は、広島市陸上協会からも駅伝選手としてオファーを頂くなど、実力は十分認められており今後の活躍が期待されている。
--	-----	--

【2011 年度】

今井 ひとみ	国際学部 4 年	当該学生2名は、広島市内の外国人支援に長く関わり、ボランティア活動として広島国際センター、沼田日本語教室への支援に長期的に関わってきた。これは、国際学部ならではの活動であり、他の市民ボランティアと協働することで、地域における広島市立大学の名前を広めた点も評価できる。また、二人は、本学の日本語の授業にもボランティアでサポート係を買って出してくれ、本学留学生への貢献も大きなものがある。
石橋 あゆみ	国際学部 4 年	
小杉 奈夏	国際学部 2 年	第 6 回日韓広島マダンスピーチ&交流における韓国語スピーチコンテストの部門において大賞を受賞した。
三宅 隆弘	国際学部 2 年	第 6 回日韓広島マダンスピーチ&交流における韓国語スピーチコンテストの部門において金賞を受賞した。
森山 彩絵	国際学部 2 年	第 6 回日韓広島マダンスピーチ&交流における韓国語スピーチコンテストの部門において銅賞を受賞した。
広島市立大学学生文化・スポーツ振興会		地域スポーツ団体などの助言をもとに、新たにグラウンドの半面を芝生化し、大学におけるより良いスポーツ施設・環境づくりに尽力した。
井上 友裕	情報科学部 4 年	中国地区大学軟式野球連盟主催第 14、15 回秋季リーグ戦で大いに活躍し、第14 回優勝、第 15 回準優勝、さらには全日本大学軟式野球連盟主催第 26 回、27 回西日本大学軟式野球選手権大会に中国地区代表としての 2 年連続出場に大いに貢献した。この際、中国地区大学軟式野球連盟主催、第 13、14、15 回秋季リーグ戦では 3 年連続ベストナイン(外野手)に選出され表彰された。
木原 駿	情報科学部 4 年	中国地区大学軟式野球連盟主催第 15 回秋季リーグ戦で大いに活躍し、リーグ戦準優勝、さらには全日本大学軟式野球連盟主催第 27 回西日本大学軟式野球選手権大会に中国地区第二代表としての出場に大いに貢献した。この際、中国地区大学軟式野球連盟主催、第 15 回秋季リーグ戦では打点王、に輝き、連盟より表彰された。

杉野 伸	国際学部 3 年	国内の主要な大会で優秀な成績を残すまでになった。今年開催された倉敷国際トライアスロン大会(7/10)では3位に、ハワイトライアスロン in 湯梨浜(6/19)では4位に入賞し、全日本インカレ出場を果たした。また、本学生は学生文化・スポーツ振興会の一員として、市大グラウンドの芝生維持管理にも尽力するとともに、キャンパスリポーターや広島市の旧広島市民球場跡地活用委員を自ら引き受け、積極的に社会的活動を行い、他の学生の模範となった。
------	----------	---

【2010 年度】

菅 秀裕	情報科学研究科 博士前期課程 2 年	当該学生4名は、「3次元音を用いた視覚障害者支援システムによる事業展開」というテーマで、2010年度第9回キャンパスベンチャーグランプリ中国に応募し、テクノロジー部門優秀賞(NTT ドコモ中国支社賞)を受賞した。
平岡 大司	情報科学研究科 博士前期課程 2 年	
尾茂井 宏	情報科学研究科 博士前期課程 2 年	
上木 晴佳	情報科学部 4 年	
岡田 誠流	情報科学部 4 年	当該学生は、駅伝を通して地域の活性化及び交流を目的として開催している西風新都駅伝大会において、第9回、第10回の2年連続で「西風新都駅伝実行委員会 実行委員長」を務め、大会運営は当該学生を中心に運営された。
第15回 広島市立大学 大学祭実行委員会		第15回広島市立大学大学祭の実行委員会は、2008年10月25日(土)、26日(日)に開催された第15回広島市立大学大学祭にあたり、イベント、模擬店、カフェ、フリーマーケット等の企画、準備、運営に尽力し、学生生活の中で最大のイベントの一つである大学祭を大いに盛り上げ、成功に導いた。
塩谷 弦	情報科学研究科 博士後期課程 3 年	当該学生6名は、日刊工業新聞社主催の第8回 CVG(キャンパスベンチャーグランプリ)大会中国地区大会において、「レーザレンジファインダによる全自動駐車システムの開発・販売」で優秀賞・新技術部門エネルギー中国電力賞を受賞した。(ほか1名は平成21年度受賞)
大黒 さゆり	情報科学研究科 博士前期課程 2 年	
高橋 勇登	情報科学研究科 博士前期課程 2 年	
中本 達雄	情報科学研究科 博士前期 2 年	
福本 章良	情報科学研究科 博士前期課程 2 年	

広島市立大学ねっこ広島		広島市立大学ねっこ広島は、諸々の社会貢献活動に従事し、広島フラワーフェスティバル、市立大学大学祭におけるゴミ分別、公民館と共同して地域の子ども達との自然体験（環境教育）など、主に環境分野において活発に活動を展開するなど、ボランティア活動に熱心に取り組んできた。 また、社会的にも認められ、広島ユネスコ協会から 2009 年度広島ユネスコ活動奨励賞を受賞した。
間弓 沙織	情報科学部 4 年	主に走り高跳びにおいて、第 25 回レディース陸上（日本陸連主催・全国大会）6 位、広島市選手権大会優勝、広島県陸上選手権大会 3 位、中国 5 県対抗陸上選手権大会 3 位、中四国学生陸上大会 2 位と数々の大会で優秀な成績を収め、大学の課外活動の発展に大変貢献した。また、3 年生では陸上部初の女子キャプテンとして部をまとめ、近隣の子どもたちを集めた陸上教室を地域スポーツ関係者と連携して毎月 1 回市大グラウンドで開催し、自ら子どもの指導にあたった。
森野 雄太	情報科学部 4 年	平成 21 年度中国地区大学軟式野球連盟主催第 14 回秋期リーグ戦優勝、さらには全日本大学軟式野球連盟主催第 26 回西日本大学軟式野球選手権大会に中国地区第一代表としての出場に大いに寄与した。また、中国地区大学軟式野球連盟より、第 14 回秋期リーグ戦最優秀選手及び最優秀投手として表彰された。
横山 敏大	情報科学部 4 年	平成 21 年度中国地区大学軟式野球連盟主催第 14 回秋期リーグ戦優勝、さらには全日本大学軟式野球連盟主催第 26 回西日本大学軟式野球選手権大会に中国地区第一代表としての出場に大いに寄与した。また、中国地区大学軟式野球連盟主催、第 14 回秋期リーグ戦では打点王に輝き、連盟より表彰された。

【2009 年度】

山崎 真一	国際学部 3 年	日刊工業新聞社主催の第 7 回 CVG (キャンパスベンチャーグランプリ) 大会中国地区大会において、「規格外農産物の有効活用」というユニークなテーマで奨励賞を受賞した。
市大クリスマスイベント実行委員会		市大クリスマスイベント実行委員会(委員長国際学部 3 年久保田千尋)は、前学長より大学に寄贈されたピアノを活用してクリスマスを演出するイベントを企画・運営し、2008 年 12 月 10 日に本学講堂大ホールにて演奏会を実施した。同委員会のメンバーは昨年の市大イベントでも同様の演奏会を企画・実施し、また本年度の大学説明会においても演奏を披露するなど本学に貢献した。

都市ギャラリープロジェクト 学生代表 田岡 加奈子 早田 有里	都市ギャラリープロジェクトは国際学部と芸術学部のコラボレーションという広島市立大学の特色を最大限に活かし、地域を巻き込んでの社会貢献プロジェクトを実行し、本学の知名度・イメージアップにも大いに貢献した。 当プロジェクトにおいて、2人は企業からの協賛や財団からの助成の獲得、マスコミ対応などの活動を主導した。
第三回パソコン出前 なんでも相談室実行委員会	知的制御システム研究室の学生 14 名による第三回パソコン出前なんでも相談室実行委員会は、社会貢献型自主プロジェクト採択事業である「第三回 パソコン出前なんでも相談室(初心者対象)」を実施した。 この活動は大学で得た情報科学の知識や研究活動等を地域に還元し、地域と大学の相互理解と発展につなげることを目的としている。 今後の発展に対して大いに期待できるものであり、地域社会と本学の相互理解を深め、発展させる活動として参加者から社会的に高い評価を受け、また、3 年間の継続的であつ今後も発展が見込まれる。
位田 耕基	情報科学研究科 博士前期課程 2 年 当該学生 6 名は、日刊工業新聞社主催の第 8 回 CVG(キャンパスベンチャーグランプリ)大会中国地区大会において、「レーザレンジファインダによる全自動駐車システムの開発・販売」で優秀賞・新技術部門エネルギー中国電力賞を受賞した。(ほか 5 名は平成 22 年度受賞)
都市ギャラリープロジェクト “七色の軌跡一つながる未来ー”	都市ギャラリープロジェクトは、国際学部と芸術学部のコラボレーションという広島市立大学の特色を最大限に活かし、地域・海外住民を巻き込んだ社会貢献プロジェクトである。 平成 21 年 10 月から始動したプロジェクト第 2 弾“七色の軌跡一つながる未来ー”では国際交流の要素をさらに深耕化させ、日韓の小学生同士がともに作品の制作プロセスを共有し、その後もメッセージカードを交換することで交流を深めている。
第 8 回西風新都駅伝実行委員会	西風新都駅伝大会はスポーツを通じた地域活性、交流を目的として開催している。 第 8 回西風新都駅伝実行委員会は、本庄実行委員長を中心に 2008 年 3 月に開催された第 8 回西風新都駅伝大会を運営し、成功に導いた。
第 14 回広島市立大学 大学祭実行委員会	第 14 回広島市立大学大学祭実行委員会は、2007 年 10 月 27,28 日に開催された第 14 回広島市立大学大学祭の実施にあたり、カフェや模擬店、フリーマーケット、ステージ企画など自主的に運営、管理し、それに伴う準備、片付けに尽力し、成功に導いた。

吉岡孝将	情報科学部 4 年	第 56 回全国国公立大学選手権水泳競技大会男子 200m バタフライの標準記録を突破したことにより同大会に出場予定
広島市立大学硬式庭球部		広島市立大学硬式庭球部(代表 橋本健志)は、平成 21 年度全日本大学対抗テニス王座決定試合中国四国地区大会男子 5 部校(15 チーム参加)において準優勝した。

【2008 年度】

渡邊 恭子	国際学部 4 年	広島国際ユースシンポジウム(第 2 回同シンポジウム副実行委員長就任)や、日米学生会議(第 60 回同会議実行委員就任)などで大きな役割を果たした。
金 祐賢	国際学部 4 年	日刊工業新聞社主催の第 7 回 CVG(キャンパスベンチャーグランプリ)大会中国地区大会において、「規格外農産物の有効活用」というユニークなテーマで奨励賞を受賞した。
松尾 沙織	国際学部 4 年	
池松 美穂	国際学部 4 年	
国際学部 金泰旭ゼミナール		金泰旭ゼミナール(ゼミ長:山口英美)は、財団法人広島ベンチャー育成基金主催の第 11 回(2006 年)、第 12 回(2007 年)の広島ヤングベンチャー(学生枠)において銀賞に輝いた。また、日刊工業新聞社主催の 2007 年 CVG(キャンパスベンチャーグランプリ)大会中国エリアにおいて奨励賞を、また、2008 年 CVG 大会中国エリアにおいて大賞に注ぐ優秀賞に輝いた。
水本 剛	情報科学研究科 博士前期課程 2 年	平成 20 年度第 10 回 IEEE HISS が本学外において開催されたが、HISS は中国地域 7 大学の学生 59 名で構成される実行委員会で企画・運営されたが、その実行委員長として会議費の一部を獲得し、また、実行委員を陣頭指揮するなど大会を大成功に導き、本学の社会に対する貢献をアピールした。
鈴木雄策	情報科学部 4 年	日本学生トライアスロン界の最高峰の大会である「日本学生トライアスロン選手権観音寺大会」や所属団体推薦等により出場できるエリートレース「2008ITUトライアスロンコンチネンタルカップ蒲郡大会」に出場するなど、トライアスロン部において突出した実績の持ち主である。 また、各種大会運営に協力するなどトライアスロンの振興は顕著である。